



**大西康司** Koji Ohnishi

南海放送株式会社 代表取締役社長

1959年生まれ、川之江町出身。  
川之江小→川之江北中→川之江高校→早稲田大学  
1982年4月に入社し、もぎたてテレビなどの番組制作を担当。2020年6月から現職。

# 放送局の役割は 情報のろ過

——放送局に入ろうと思ったきっかけを教えてください

中・高校生の時は、マスコミや弁護士の仕事に興味がありました。私に「あなたはおとなしいから、マスコミのような仕事でいろいろな経験をした方がいい」と言ってくれる人がいて、そこからマスコミの道に進むことになりました。テレビ局か新聞社か、全国区かローカルか悩みましたが、当時地元で募集があった当社を就職先に選びました。

入社後配属された部署は、現場ではなくコンピューターを使う管理部門でした。希望が叶って番組制作に配属されたのが3年目で、以降20年以上現場一筋でした。

——これまでどのような番組に携わってこられましたか

広く知っていただいているものであれば、30年続いている「もぎたてテレビ」ですね。放送開始時のメンバーでした。それまでも地域情報番組はありましたが、それとはちよつと違うものを作りたいと始めたのが「もぎたてテレビ」でした。

通常こういった情報番組では、一つの企業や店舗を「点」として取り上げて放送します。しかし、もぎたてテレビでは、例えば「金生川流域の旅」のように「面」で取り上げることで、地域を一つの物語として表現します。取材は泊まり込みで行い、放送する時には町内会と同じぐらいの情報を持っていました。

放送開始当初の視聴率は3%ほどでした。当時消費税率が3%だったことから「消費税視聴率」なんて自虐的に言っ

いました(笑)。しかし1年後には20%を超えるようになり、喫茶店に行く隣の席から「今日のもぎたてテレビの内容はあれだったね」「来週はこんなことやるんだって」と聞こえてくるようになりました。

「ああ自分たちの作ったものが、みなさんに見てもらえているんだな」と実感したものです。

——長く応援していただいている書道パフォーマンス甲子園についてお聞かせください

書道という究極の伝統文化にパフォーマンスという新しい風を吹かした書道パフォーマンスは、紙産業が盛んで、チャレンジ精神のある人が多い四国中央市で生まれるべくして生まれたものだと思います。そういった環境は子どもたちにい影響を与えていると思います。

何より、高校生ボランティアが、主体的に自分たちの役割を果たしていることが素敵です。

四国中央市の子どもたちには、チャレンジすることを躊躇(ためら)わない、その精神を受け継いでほしいです。

——これからの放送局の役割をお聞かせください

放送局は「情報のろ過装置」です。さまざまな情報をろ過し、正しい情報を視聴者に届けることが放送局の最大の役割です。テレビ・ラジオの情報を信用して番組を視聴してくれる方の信頼を失ってはいけません。私たちは、愛媛の視聴者に選ばれた放送局、無くしてほしくない放送局でありたいと思っています。

